

さあ、ふだんは言えない本音をさらけ出していただきましょう「ウワサの保護者会！」
今回のお悩みは、「どうする？ママとパパの対立」

【今回のホゴシャーズ】

夕顔 (母)：長女・高1/次女・中1
ビオラ (母)：長女・小4/次女・小1/長男・年中
ミドリムシ (母)：長男・高2/長女・中3
コスモス (母)：長女・大2/次女・中3
ひまわり (母)：長女・高2/次女・小
うめ (父)：長女・小2/長男・年中
からまつ (父)：長女・22歳/次女・20歳/長男・高1
カエデ (父)：長男・中1/長女・小2

高山：実はパパはママと、そしてママはパパと、子育てでちょっと対立しちゃっているという皆さん。

尾木：おー。深刻なんだ。

高山：うめさんは、ちなみにどれぐらい大変なのですか？

うめ：うちはですね、ゲームです。ゲームを、私はやらせたい派なんですけど、ママはなかなかやらせなくて、買ったままのゲームが、いまだに押し入れにしまいっぱなしで、もう4ヶ月くらいたちました。もう、ずっと平行線でして…。

尾木：じゃあ、ゲームは陽の目を見てないんだ。

うめ：見てないんです。

尾木：おーっ、それはかわいそう。

高山：ビオラさん、どれくらいパパさんとうまくいかないのですか？

ビオラ：うまくいかないっていうか、向こうも口が結構達者だし、私も負けていたくないし。向こうが言っていることに根拠がないんで、このまま負けちゃいけないと思って、ずっと延々と、何時間も、朝方までとか口論したこともあります。

高山：夜通してことですか？

ビオラ：とことん来い！っていう感じで。いつまでも付き合うよ！っていう感じで。

高山：ちょっと私、いま怖いなと思いました。

前のめりで来られると、これを朝まで？と考えちゃいますね。

(一同笑)

高山：コスモスさんは、どうなんですか？

コスモス：私ですか…。夫は、ふだんはすごく穏やかな人ですけど、ちょっとしたことでひょう変するんです。急に変わるんです。背も高くて、顔も濃いんですよ。

高山：顔が濃いのは、関係ありますか？(笑)

(一同笑)

コスモス：上から言われると…。濃い顔で言われると…(笑)

高山 : 好きで一緒になったんでしょ？（笑）



高山 : 具体的にはどんなことで対立してしまうのかというケースを見ていきたいと思います。
まずは夕顔さん。取材をさせていただきましたので、こちらをご覧いただきたいと思います。

パパと2人の娘のため、毎日、料理の腕を振るう夕顔さん。

この光景からは想像できないのだが、実は夕顔さん、長年同じ問題でパパと対立している！

夕顔： とりあえず、今の状況だと責め合いになるんですね。話し合いのつもりが責め合いみたいなの。

娘の好き嫌い。克服させる？克服させない？

夕顔さんの長女、さくらちゃんは好き嫌いが激しい。

食べられないものは豆類全般、貝類全般、かまぼこ、こんにやく、ピーマン、エビ、ヨーグルト、ゆで卵…など、たくさん。ちなみにこれ、体質の問題ではない。

好き嫌いを少しでも克服させたい夕顔さん。

さくらちゃんと「嫌いなものでも、最低一口は食べる」という約束をしていた。

ところが、さくらちゃんが小学5年生のとき、夕顔さんが、ゆで卵入りのグラタンを出すと…。

さくら： 食べたくないな…。

夕顔： なんで食べないの？一口は食べるっていう約束でしょ？

さくら： うーん…。

と、そのとき、パパが…。

パパ： 食べたくないものは無理して食べんでいい。

夕顔： ちょっと！横やり入れないでよ！

パパ： 子どもがこんなに嫌がっているだろ！

夕顔 : そりゃあ、食べたくないんだから、イヤイヤアピールはするわよ！
お父さんがそんなこと言っていたら、いつまでたっても食べられないままじゃないの！
パパ : 嫌いなものを無理やり食べさせるなんて、お前のやっていることは拷問同然だ！
夕顔 : な、なんですってえ～！(怒)



ちなみに、この日のお昼ご飯もグラタン。

夕顔さんはさくらちゃんが苦手なゆで卵を食べやすいように、薄くスライスして入れておいた。

夕顔 : 絶対食べられないものは誰にでもあるじゃないですか。だから絶対食べられないものがいくつかあるのはわかります。でも、そんなにいっぱいはないはずだろうって思っているんですよ。

しかし、これが再び夫婦が対立する原因に…。



夕顔 : もちろん苦手なのはわかっているんですけど、スライス一切れでいいから食べるって、そういう約束なんですよ。嫌いなものがあっても、一口でいいから食べてみようっていう約束。

パパ : 約束と言っても親と子の約束なんて約束じゃなくて、強制を言い変えただけの偽善的なものじゃないですか。今は何でも選べる時代、むしろ選ばなきゃいけない時代に好き嫌いなんか、これを強制することは、全くナンセンスだと思うんです。

夕顔 : 皆でわいわい食べているときに、自分だけよけて食べているとか、そういう人になってほしくないの。

パパ : 毎回嫌なものを食べた記憶を積み重ねていくと、じゃあどんなよいことが人生にあるんだというふうに思う。

夕顔 : 嫌なものがよいものになる瞬間が今来ているかもしれないと思うの。だから一口食べろというのそういうことで…。

(パパ退席…)

夕顔： どっちかっていうと私の立場にくみしてもらおうというか、こっちサイドに立ってほしいんですよ。私としては難しい局面にいるっていうふうに自分でも思っているんで、手を差し伸べてほしいというのもあるし、わかってほしいのもあるし…。じゃあ、どうしたらここから脱せるかっていうのを一緒になって考えてほしいのに、向こう側から責められているっていう…。腹が立つばかりですよ。

互いに一步も譲らず、今も対立している夕顔さんとパパ。
皆さんのご家庭でも、こんなことがありますか？



高山： わかってほしいと？お子さんにも？旦那さんにも？

夕顔： そうなんです。

ビオラ： 子どものことを考えているのは、ママのほうですよ？

夕顔： そうです、はい。

ビオラ： 栄養のバランスだって、考えるのは大変ですよ。食べられないものがあると…。

夕顔： そうそう。

ビオラ： 私の友だちで、卵だけで生きてきた人がいましたけど。魚も肉も嫌いで。

尾木： えーっ。

高山： なんか、うめさん、自分が言われているような感じで、しょぼーんとされているんですけど(笑)

うめ： 私の娘も魚嫌いで、全然すし屋とか行ったことがないんですよ。

うちはそんなに強制はしませんけど、だんだんと食べさせてあげないといけないなって気持ちはあるんですよ。ただ長い人生ですからね。そんなに無理に食べさせる必要はないかなという。

どちらかという今このVTRからすると、ちょっとお父さん寄りかなっていう。

ミドリムシ： 私の主人は、緑黄色野菜が全部ダメなんですよ。

野菜がダメで、ひき肉も「肉じゃない」と言って食べないんですよ。

尾木： えーっ！

ミドリムシ： 食べられないダメな父親を見ているので、子どもは「僕、食べられたよ。」みたいなことがあります。

夕顔：ご主人は困ってないんですか？

ミドリムシ：給食のときに、やっぱり、ずっと最後まで食べさせられる時代だったので…。

尾木：残されてね。

ミドリムシ：みんな掃除の時間なのに、残されて。

夕顔：そういうふうには、どこかで困ったら、やっぱりかわいそうって思うし、私が何とかしてあげられるんだらってという思いが出て、ちょっと無理やり感が出ているのかもしれないですね。

高山：なかなか夕顔さん、譲りませんね。

夕顔：そうですね。

尾木：すごいね。お話を聞いていると、お母さんたちは密着している中で子どもを理解している。お父さんのほうは、もうちょっとふかんして見ているから、評論家みたいなこと言って、母親は後ろから背中を刺されるみたいなことが…（笑）

夕顔：こっちは毎日汗かいて子育てしているのに、夫は涼しい顔して評論して。

コスモス：お子さん食べなくていいやって思っちゃいますもんね。

夕顔：そうなんです。だから1番わかってほしい人なんです。

尾木：そうなのよね。

高山：子どもの成長とともに対立してしまう課題というか、そういったものが増えてくると思うんですが、そういったものの1つに受験があると思います。

尾木：あー、受験ね。

2人の娘を持つコスモスさん。

8年前、長女の中学受験をめぐりパパと激しく対立したという。

コスモス：理解できないので、これ以上口論はしたくない！

娘の受験、勉強重視か、興味重視か？

コスモスさんの長女、じゅんちゃん。小学6年生のとき、周りの友だちの影響で中学受験を決意。

じゅんちゃんは、成績は決して上位ではなかったが、絵を描くことや踊ることが好きだった。



コスモスさんは、そんなじゅんちゃんに合うと思う学校の説明会を、いくつもハシゴした。でもパパは、一度も来なかった。

そんな、ある晩のこと…

コスモス：ねえパパ、私今日、美大付属の中学を見てきたんだけど…。

パパ：なにー！美大付属？ダメだ！美大に行ってアーティストと結婚なんか許さんぞ！

パパは、じゅんちゃんが将来安定した生活ができないと、コスモスさんが提案する学校をことごとく却下。代わりに勉強重視の進学校を提案してきた。

パパ自身、有名進学校の出身なのだ。

でもコスモスさんは、勉強重視の校風がじゅんちゃんに合うとは、とても思えなかった。

コスモス：娘を思って、心配しての言葉だったと思うけど、私とか娘の意見や気持ちを全くくみ取ってくれないところが嫌でした。

さらに、こんなことも…。

コスモスさんとじゅんちゃんが、ある学校の説明会から帰って話をしていたとき。

コスモス：今日の学校の制服可愛かったね。

じゅん：うん、あれ着たいな。

パパ：こらー！おまえたちは制服なんかで学校を決めるのか！ふざけるな！

コスモス：何よ！制服だって大事な要素の1つでしょ！

年頃の女の子が何年も着続けるものなんだから！

両者：んぐぐぐ…。



コスモス：本当にそんな人だと思わなかったの…。これちょっと放送できない…。離婚を考えたぐらい… (笑)

あの、結婚するまでに8年ぐらい付き合っていて、知り合って20年くらいのお話だったんですけど、本当にそんな人だとは思わなかったの…。

口論に疲れてしまったコスモスさん。
以後、子どもの進路の話をパパとすることはなくなっていったという…。

高山 : 夕顔さんが、すごく食いついていましたけど？

夕顔 : わかります。よくわかります。

見学は行かないでね。見学にこっちは行っているのに。

コスモス : 全く行かない。

夕顔 : 私は足を使って、いろいろこれがいい、あれがいいって調べて行っているわけですよ。それを
なんか、行きもしないでね。

コスモス : 俺はわかるんだ！行かなくてもわかるからって…。

尾木 : すごえな（笑）

高山 : 行かなくてもわかると？

コスモス : 夫は行かなくても、わかるそうなんですよ。わかんないですよ？

高山 : 普通は、見てないんですから、わからないですよ。

ビオラ : 非現実的。アーティストと結婚なんか許さんぞって言っていましたよね？

コスモス : 小学生で、私もそう来たかって思いました。

高山 : 中学受験ですもんね？

コスモス : 結婚ですか！？って（笑）びっくりしちゃって。

尾木 : 僕、自分の娘がね、美大に行きたいって言ったんですよ。

そのときに、お父さんと同じようなこと言ったの。

夕顔 : 何でダメって言ったんですか？

尾木 : 怖い、怖い、怖い。そんな、そんな。

（一同笑）

夕顔 : 聞きたい！なぜですか？

尾木 : なんていうのかな。お父さんと同じ価値観で、就職だとか、そんなに甘くない。美術で食べて
いくって大変なんです。娘をそんな苦労させるのは、かわいそうだと思ったの。

夕顔 : その先の生活が心配だったんですか？

尾木 : そんなきつい顔しないの（笑）



- 尾木 : だから、男の人にも心配するのよ。僕、そのときは男だったのね。まだママじゃなかったから。もうちょっと早くママになっていればね、理解できたんだけど。
僕が「そんなの結構大変でしんどいよ。それよりももっと、社会学だとか、もうちょっと幅の広い、潰しがきくっていうか、そういうのがいいんじゃないか」って言ったの。
- うめ : そう思います。
- 尾木 : 思うよね。わっ、男の子になっちゃった(笑)
- コスモス : だけど、そんなに頭ごなしに言わなくても、っていう…。
- 尾木 : だから、僕も頭ごなしにはなかったんだけど、きついよって言ったつもりだったの。そして「えーっ、でも、やりたいな」とか言っていたんだけど、本当にやめちゃって、僕が行ったような学部に進学しちゃったの。
- コスモス : それも辛いですね。
- 尾木 : そうなんですよ。
- 高山 : でも、コスモスさんのお宅みたいに、パパさんは、頑固というか、かたくなというか。
- コスモス : 愛するがゆえに…。
- 高山 : 愛するがゆえに。
でも、ちょっと、やり方としては強すぎるというか、頭ごなしにやりなさいっていうご家庭で。ビオラさんのお宅はどうですか。
- ビオラ : 仕事から帰ってくると疲れているのか何なのか、とにかく仁王立ちで「片づけろー！」ってまず、子どもたちに怒鳴ります。まず、自分が1番えらいっていう。自分のことを棚に上げて、自分はすごい片づけ苦手なんですよ。
- 高山 : カエデさんが自分のことを言われているかのように…(笑)
(一同笑)
- 高山 : ここまでは何となくパパが劣勢な空気になっておりますが、パパだって何も考えてないわけじゃありません。VTRをどうぞ。

休日に開かれた、パパ限定の保護者会。



どうやらパパ側にも言いたいことがいろいろあるようだ。

うめ : うち、子どもをもちろん育てているんですけど、家内が子育てばかりに集中しちゃっていて、掃除をしないんですよ。

オリーブ : こっちがカチンとくるキーワードを、ボンボン言いますよね。

けやき : だんだん売り言葉に買い言葉になって、感情的に爆発していくじゃないですか。

シラカバ : 学校関係とか全然伝わってこないんですよ。母親がやっているとは思うんですけど…。

けやき : それはちょっとよくないですね。

シラカバ : 自己満足？
自分が子どもを育てて、ほとんど全部やって、塾なんかも全部やっているんだぞという思いがあるんじゃないですかね。

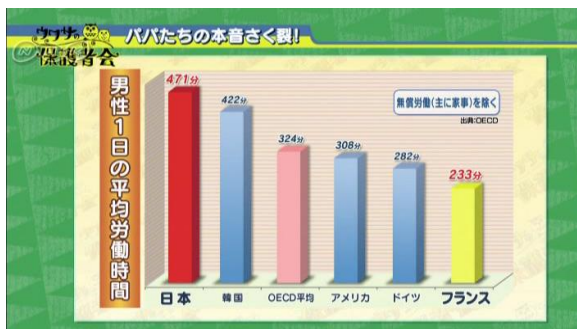
うめ : 運動会も朝早くから並んでとかして。
これだけ…。俺、前の日、ものすごく遅く終電で帰って来ているのに、また朝6時に並んで、この苦勞をなんだと思っているのかと…。

からまつ : 当然のように思われている。
(一同共感)

うめ : なんか評価が低い。認めてもらえない。

からまつ : 旦那さんっていうのは働いているわけじゃないですか。
それで、子どもの面倒を見ろとか、子どもをわかってないとか、それできなくて当たり前だろ！って。

日本のパパは世界的に見ても稀な長時間労働を強いられている。
フランス人男性と比較すると、およそ2倍。



だけど、「働き者のパパならでは」の子育てだってあるはず…そうパパたちは言う。

うめ : 女はどうしても、ほら、周りの奥さんのつきあいもあるし、毎日接しているからどうしても、競争的などところがあると思う。

からまつ : 1点に集中しちゃうんですよ。

うめ : そう、1点に集中しちゃうんですよ。
男は、私も週に1回とか2回しか会えないから、競争的などところには全然関心なくて。成績よりも、いろんなイベントとか、遠くへ行くとか、いろんなことを体験させようと思っているんですよ。だから、休みの日に家内が寝ている間に出かけるんですよ。

つつじ : 反対されながらも、常に新しいことを子どもたちに与えてあげるっていうのは、自分の役割として大切なと思いますよね。

からまつ : お母さんたちっていうのは、家の中で子どもたちとしか接していないっていうか、世間の常識とか一般の情勢っていうのは、あまりわかってないっていうか…。まあ、テレビとか見てわかってはいるんだろうけども、男の人のほうが経験していること多いと思うんですよ、実体験が。

うめ : 社会に出ているからね。

からまつ : 上司にこんなことされたとか、部下にこう言われたとか、そういうのも含めて、総合的に男の人って考えていると思うんだよね。

パパはパパなりに子育てへの関わり方を模索しているよう…。

パパたちの言い分、みなさん、どう考えますか？

うめ : もっともです。もっと評価してほしい。

からまつ : やっぱり、男の人って、つらくても、どんなにつらくても、やっぱり働かないと。

要は、お金に余裕ないと、家族も笑顔が出ない。そういう、僕の理念というか、思いがある。



高山 : 居酒屋のときと、ずいぶん語り口が違いますけど (笑)

からまつ : ちょっと怖いので… (笑) なにが出るか、ちょっと怖いんで。

ひまわり : 男性の言っていることもわかる気もするんですけど、やっぱりなかなか受け止められない…。

高山 : 受け止められない。

夕顔 : 私、思ったんですけど、評価が低いってあったじゃないですか。評価？って、思うんですよ。

私たちは？って、思うんですよ。

男性一同 : あーっ。

夕顔 : 私たち、こんなに頑張っているのには言わないですけど、例えば、子どもが風邪ひいて寝ていたら母親は寝られないですよ。ウトウトするだけですよ。でも、主人はガーガー寝ますよね。寝てもいいんですよ。お仕事があるから。そうやって、立場、役割分担をしているわけじゃないですか。それを評価してって言われてもって思いませんか？

ビオラ : 大変さはお互いに違うだけなんですよ。

夕顔 : そうなんです。違うんです。それを言うんだったら、こっちも評価してっていう。

ビオラ : 確かに仕事っていうのはしないと、お金が必要ですから。

夕顔 : 大事なことです。そう。もちろん。

ビオラ : 私たちだって逃げられないんですよ、子育てから。



尾木 : なるほどね、それはそうだ。

高山 : パパたちは学校の行事を本当は教えてほしいのに、教えてくれないと…。

ピオラ : それは私思ったんですけど。教えてくれないじゃなくて、自分から聞けばいいじゃないですか。

夕顔 : そう、教えてくれないっておかしいよね。

ピオラ : なんでそう、何でも人に任せているんですか！

高山 : 僕が言ったんじゃないですよ（笑）

（一同笑）

尾木 : 今、瞬間的にママになるわよ。

高山 : どうぞ、どうぞ、どうぞ。

尾木 : ママの気持ちから言えば、お父さんたちが言うことはみんなわかっている。理屈ではわかっているの。だから「お前も大変だよ」と言って共感してほしいだけなのよ、たぶんね。「大変だね。苦労かけているよね」と言ってくれたら「そうなのよ。パパどうしたらいいと思う？」とか言って。そここのところがなくて正論だけ言われると、超むかつくよね。

高山 : 夫婦関係が、コミュニケーションを図れば問題が解決するものっていうのは、意外に多いような印象を受けるんですけど、ひまわりさんはどうですかね？

ひまわり : わが家はほぼコミュニケーションがないというか。そんなにはないですね。

朝も、たぶん5分もしゃべってないですね。「おはよう」「行ってらっしゃい」みたいな。朝、結構主人は機嫌が悪く、朝は何も言わないほうがいいと思うんですよ。そして、夜言おうかなと思っても、夜遅くて、結局、話さないまま過ぎていっちゃうみたいになっている。

うめ : だから、興味のあることを探すんですよ。今、家内がすごく興味のあることを、いろいろ見ながら。本とか、新聞記事とか置いてあって、これ興味あるかなって。それで会話の糸口をつかんだりはしていますけど。

尾木 : すごい努力家なのね。

うめ : ミシンが置いてあれば、何か縫い物しているから「何縫っているの？」とか、そういう話はします。全然ミシンに興味ないんですけど。

コスモス : それは、逆にいいと思いますよ。

高山 : 努力しているなと？

コスモス : うん。

うめ : 努力はしているんですよ。

尾木 : 男性にもこういう方がおられるんだから。

からまつ : うちなんか、仲よくなるっていうのは、子どもが病気したとか、そういうときね。

尾木 : 緊急事態ね。

からまつ : そういうときは、お互い一致団結します。

どっちが病院連れて行くとか、一緒に行こうとか。

尾木 : あの、平常の日常もそういう状況なんですけどね。病気にはなっていないけれども、子どものためにけんかしちゃうんじゃないかって、そこをもう一歩乗り越えるといいんだけどね。同じ愛情だからね。

だって、一番大事なのは子どもですよ。僕らから見たら、どちらもそれぞれ愛情深いんだから、第3の道、じゃあどうしようかという話し合いができれば、絶対子どものためには、いろんな知恵が生まれると思います。



尾木 : だから、ひまわりさんのところのお父さんも、朝あんまり機嫌がよくないっていうのは、仕事のことでか段取りをいろいろ考えていたら、そこへ気持ちが入っていけないんだと思う。

「お父さんも大変ね」ってちょっと言ってみたら？共感してみるのよ。

ひまわり : そうですね。私も結構、人のことを認めない、評価しないっていうのが強いので。私が（笑）なので、主人も自分のことを認めてほしいっていうのがすごくあるみたいで。

尾木 : あるんだ。なるほどね。

それでも、やっぱり言ってほしいのよ。特に男性の場合はね。基本的に甘え症だからね。

カエデ : ちょっと疲れた顔しているなと思ったときに「いつもありがとね」ってこれぐらい言ってくれたら、ちょっと顔合わせるだけでも違うのかな。

尾木 : あ一切なくなってきた。何か涙が出そうになってきた。

うめ : 今日もこのあと、私はまた泊まりの仕事をして。

会社へ1回行って、ここへ抜けてきて、それでまた戻って夜通し仕事をして。それでまた、あしたの朝体操教室が10時半にあるから来てくれって。

夕顔 : 頑張り、頑張り。

うめ : それは行きますよ。

全員 : 頑張り、頑張り。

からまつ：頑張ってるね

尾木：すごいね、これはね。お父さん代表ですよ。

うめ：ありがとうございます。

夕顔：でも、みんな、どこかに感謝って絶対あるよね？

言わないのがいけないかもしれないけど、そんなのはわかっているでしょ？みたいなことお互いありますよね。

うめ：それが当たり前みたいなね。

夕顔：それでずっと来ちゃっているっていうのはあるかもしれないですね。

ビオラ：でも、今さらね、なんか (笑)

夕顔：そう。今さらありがとうみたいな、あなたのおかげでみたいな。言えない、無理、無理 (笑)

うめ：言うところなんです。言うところなっちゃうから…。

これからのウワサの保護者会は、子育てにまつわる、さまざまなテーマでお送りします。

お楽しみに！みんなの知恵が集まるホームページも必見！

(終)